

世界最大の古典菊花壇 愛知豊明花の文化園「とびだす植物園」(愛知豊明花き地方卸売市場内)

8号(直径24cm)鉢で咲かせた古典菊約250種528鉢を、6段88列に配置した菊花壇。我々が普段菊花展で目にする菊の多くは8世紀後半に中国から渡って来たものを改良したものだが、古典菊は中国に存在していなかったことから、日本独自のものと考えられる。古典菊には嵯峨菊、伊勢菊、丁子菊、肥後菊、江戸菊の5系統あり、それぞれが特色ある花を咲かせる。この菊花壇には、古典菊の系統ごとに数十品種が並べられ、それぞれの花の様子を見比べることができる。一番歴史の古いものは嵯峨菊で、伝説によれば、嵯峨天皇が離宮の大沢の池に浮かぶ菊ヶ島で摘み取った野菊がもとであるといわれている。嵯峨菊の花弁は松の葉のように細く、これが花芯を囲んで咲く姿はお抹茶を点てる茶筌ちやせんにも似る。また、江戸菊は満開になった後、さらに形が変化していく。この変化する流れを「花芸」と言い、変化仕切った姿は「芸の極りきわま」と呼ばれ、品種ごと芸の極る様子が違うという。その他の系統もそれぞれに特徴があり、古典菊花壇の横には各系統の解説パネルが置かれている。古典菊花壇の展示は12月10日まで続き、この間の毎週月曜と木曜の9時~15時までは一般に解放される。観賞を希望する場合は、公共交通機関で愛知豊明花き地方卸売市場へ行き、中門守衛所にその旨を伝えと入場証が手渡され、古典菊花壇への案内がある。

詳しくは愛知豊明花き流通協同組合 0562-96-1199 またはお問い合わせフォームまで。



茶筌のような咲き方の嵯峨菊



変化しながら「花芸」をする江戸菊



6段に528鉢が並べられた世界最大の古典菊花壇